

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング

“発想の転換と新たな天地への展開”

—新製品開発を支える精神力—

(株) ジョングエルコンサルティング 落合以臣

Front-end loading in new product development

“Shifting ideas and expanding to new areas”

- Mental power to support new product development -

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords

秩序・国家・企業論・呪縛・解決・発想・転換・起源・距離・極意

Order, nation, business theory, curse, solution, idea, transformation, origin, distance, secret

企業呪縛

ものづくりの精神を日本風に言いますと、何事にも忍耐、黙ってやり遂げる、分からないことはとことん調べるなどなど、まさしく日本人らしい特長を表しています。しかしながら、現在の風情は大きく様変わりし、法的な秩序さへ“何のその”と潜り抜けようとする“やから”が目立っていると言っても過言ではないでしょう。言い換えますと、やったもの勝ちとでもいいでしょうか、無秩序国家に落ちる寸前なのかも知れません。

こうした状況に鑑みますと、そうした無秩序的な世界に身を置くのか、あるいは粛々と築いてきた法的訴求の世界に身を置くのか、まさにどちらかを選ぶ時代に突入したと言っても過言ではないでしょう。よく若気の至りと言われますが、あまりにも大きな至りは、若かったからという言い方は当てはまらないと言えます。その大きさがわからないから、無秩序的な世界に身を置く人が多くなってきたのでしょうか。また、企業論が先行したことで、働く人々の意欲が減退し、逆に企業力が衰退したとも言えます。それは、コーポレートガバナンスが行き過ぎたために、リスクを発見するのが第一という呪縛の虜になってしまったからとも言えます。そのような企業法にがんじがらめにされた様（さま）の中で、どのようにしたら半歩抜け出し、新天地へと展開することができるのでしょうか。仮に、勤めた会社を辞めたところで、何の解決にもならないでしょう。むしろ、世の中で言う「負け組」というレッテルを貼られるだけかも知れません。

発想の転換と新たな天地への展開

何か事あるごとに、発想の転換が必要と言われる。発想の転換という言葉の由来を調べたところ、言葉の起源は見当たらず、日本地図を作成した伊能忠敬の道りが発想の転換と言えそうです。ウキペディアによれば、忠敬は日本で初めて測量し、死後の1821年、仕事を引き継いだ弟子たちが「大日本沿海輿地全図」（通称・伊能図）を完成させたと記しています。忠敬が地図を作り始めたのは35歳ごろと言われ、52歳で原図を作りその約10年後、天文学の知識を生かして経線と緯線を入れ、赤水図を完成させたと歴史に書かれています。江戸幕府は、伊能図を国家機密として非公開としたようですが、赤水図は庶民に広く普及し、その後、ドイツ人医師シーボルトらの手によって海も渡ったとされています。

これらの様子が、発想の転換と言えるのでしょうか。それは、日本地図を作成するために、幾たびかの難関、例えば、長さを図る方法がない、無いならば自身の歩数で決めればよい。このないからと言って諦めず、それに代わるものを利用したということが発想の転換の起源となるのではないのでしょうか。つまり、求めるものが無ければ、それに代わるものを利用すれば良いということ。つまり、何か代わるものがないかなと四六時中考えることによって、新たな発見が生まれるということになります。言い換えますと、偉業を達成させるためには、並々ならぬ努力と実行が伴わなければ出来ないとと言えます。

一度、発想の転換を試してください。それを繰り返し行うことで、無用な考えは消え、今置かれている自分を再発見できるはずです。少なくとも、発想の転換を起こしている間は、何もかも忘れてはいるはず。この極意を身に着けることで、企業呪縛から距離を置くことができ、それが新たな天地へと展開していくことができるはずです。